

真夏の陽浴び、プレーできる幸せを噛みしめて

🚩「スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ全国大会」が2年ぶりに開催



①比較的起伏の多いコースのため、時には慎重なプレーが求められた ②試合前、ゴルフクラブを重ね気合いを入れる「ドリームチーム」 ③108人の児童を代表して、宮里プロの前に選手宣誓した佐久間大魁さん
④開会式で決めポーズを披露した笠間市立穴戸小学校(茨城県) ⑤キッズキャディーに優しく話しかける額賀辰徳プロ

ベルマーク財団が2013年から後援している「スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ全国大会 in 西郷村」が7月17日、福島県西郷村のグランディ那須白河ゴルフクラブで開かれました。コロナ禍で密を避けるため、今年は2ヵ所での分散開催です。この日は東日本各地から集まった小学生の21チーム108人に、プロゴルファー6人による「JGTOドリームチーム」も加わり、熱い戦いを繰り広げました。

スナッグゴルフは「ゴルフを始めるために」を意味する「Starting New At Golf」の頭文字から名付けられた競技で、ホールの代わりに、ボールがくっつく素材の「スナッグフラッグ」を使います。用具はベルマーク預金でも購入できます。

2～6年生による3～6人で1校1チームを編成、9ホールをプレーし、上位3人の合計ストロークで順位を決めます。

予選を勝ち抜いたチームに加え、2019年度全国大会の上位3校、震災復興支援枠のチームも参加しました。特設コースは合計507ヤード、パー36です。

午前10時過ぎから、選手は会場に慣れるための練習をしました。練習を終えると、カレーライスの昼食です。

午後からはいよいよ開会式。「ドリームチーム」の宮里優作、貞方章男、内藤寛太郎、額賀辰徳、大槻智春、堀川未来夢の各プロが登場すると、小学生たちから憧れのまなざしを浴びていました。選手宣誓は常陸大宮市立大宮小(茨城県)6年の佐久間大魁さん。「去年大会に参加できなかった先輩たちの思いを胸にプレーします」と話しました。

その後、コースに移動してプレーが始まりました。最高気温は36.5度を記録し、太陽が照りつける中でも、選手は一

打一打に集中。プロから「ナイス」「上手いよ、伸びてるよ」と声がかかります。

「スイングの方法など、スナッグゴルフとゴルフは通じるものがあります。経験しているとゴルフにも応用できる」と話すのは宮里プロ。実は娘さんもスナッグゴルフをプレーするそうです。

競技を終えると表彰式です。優勝は選手宣誓した佐久間さんの大宮小(76ストローク)。準優勝は千歳市立千歳第二小(北海道)、3位は笠間市立北川根小(茨城県)でした。

ベストスコア賞に選ばれたのは佐久間さん、西郷村立米小6年の大川原伊吹さん、千歳第二小6年の山口令愛さん、笠間市立穴戸小6年の山中奏良さん。そして、この4人以上に好成績を収めたのは額賀プロ。前回2位だったことが悔しく、家にスナッグゴルフ用具を常備し

て練習してきたそうです。

閉会の挨拶をしたのは多古町立多古第一小(千葉県)6年の木川智史さん。「昨年はコロナで我慢の一年でしたが、今年は全国のお友達とプレーできてとても幸せです」と話し、みんなで一礼。大会は盛大な拍手で締めくくられました。

◇

この大会は一般社団法人日本ゴルフツアー機構(JGTO)と日本スナッグゴルフ協会が主催しています。JGTO貢献事業部長の宮内勝さんは、「スナッグゴルフは審判員がいないため、自分で考え、申告し、責任を負うスポーツ。競技を通して、道徳心を学んでほしい」と語りました。

翌日、子どもたちは東日本大震災の教訓などを学ぶため、福島県三春町の「コミュニティ福島」を訪問。毎年、大会翌日にこのような見学会が付設されています。

今年は春の運動会・体育祭できた！

🚩ベルマーク預金で用具購入

コロナ禍で昨春は学校の運動会・体育祭の中止が相次ぎました。でも今春は、感染防止対策を取りながら、多くの学校で実施されているようです。必要な用具を揃えるためにベルマーク預金も活用されました。

名古屋市昭和区の市立向陽高等学校は5月11日に体育祭を実施しました。コロナ対策で、応援する生徒を競技ごとに入れ替え、閉会式も開かず、後日優勝クラスには教室でトロフィーを手渡しました。

そのトロフィーはベルマークで買いました。様々な行事で使えるよう12個購入。台座に行事名や賞の種類などが刻まれています。発案はベルマーク活動を担う生徒の財政常任委員会(27人)。「コロナの影響で行事が縮小される中、みんなが喜ぶものを」との思いからでした。生徒会顧問の佐藤圭先生は「行事は生徒たちの成長の場として大切な機会。それを盛り上げるのにベルマークも役立ったのでは」と話しました。

福島県伊達市の市立掛田小学校は5月22日に運動会を予定。雨で翌日に延期されましたが、保護者の校庭整備への協力もあって何とか開催することができました。

この運動会にあわせ、同校は玉入れ競技の紅白玉を各80個と、綱引きロープ1本を購入していました。でも雨上がりの校庭の状態が良くなかったため、「新品を下ろすのはもったいない」と当日は古い用具を使い、新品は後に子どもたちにお披露目したそうです。「学校予算が限られている中、ベルマークでの購入は非常にありがたいです」と斉藤正義教頭。

昨年は5月に運動会ができず、種目も縮小したうえで9月に実施したそうです。

千葉市若葉区の市立千城台東小学校は昨年、春の運動会を11月に延期しましたが、今年は例年通りの春開催に戻し、コロナ対策を施して5月22日に開催しました。

運動会にあわせ、ベルマークで「ワンタッチテント」を買いました。一昨年の運動会では5月なのに気温が30度超にもなり、子どもたちの応援席にもテントをと決まったそうです。ベルマーク預金だけでは足りずPTA費を補充して購入しました。でも当日は強風だったこともあり、テントは「温存」されました。今は箱に入ったままの状態です。



④力走する掛田小の子どもたち ⑤向陽高のトロフィー ⑥千城台東小